

短期予報解説資料 2026年1月16日15時40分発表

気象庁

1. 実況上の着目点

① 500hPa 5400m付近のトラフに対応する低気圧が発達しながら日本の東を東進。北日本～東日本では風がやや強く～強く、波が高い所がある。また、北日本では低気圧の後面に移流する寒気の影響で、3時間5cm前後の降雪の所がある。

② 衛星画像(ダスト画像)では、黄海～日本海、一部、西日本に広がる黄砂が確認できる。大阪では黄砂を観測(視程が10km以上)している。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①の低気圧は、発達しながら

日本のはるか東を東北東進し、次第に日本付近から遠ざかる。北日本～東日本のやや強い風は次第に弱まり、波も次第に低くなるが、北日本では17日はじめにかけて、北陸地方では16日は、風雪や強風、高波に注意。また、北日本中心の寒気移流も次第に弱まり、北日本の降雪も一旦弱まる。

② 500hPa 5400m付近の流れの場合は西北西が続くなか、-30°C前後の寒気を伴う浅いトラフが17日夜にかけて日本海～北日本を東北東進する。トラフに対応する低気圧が16日夜までに日本海西部に発生し、発達しながら17日に日本海から三陸沖に進む。低気圧に向かう下層暖湿気と上空寒気の影響で大気の状態が非常に不安定となる所がある。北陸地方～東北地方では、17日は落雷や突風、降ひょう、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。また、低気圧周辺や、低気圧通過後の寒気移流の影響で降雪量が多くなる所がある。東北地方では17日～18日は大雪による交通障害や着雪、なだれに注意。

③ 500hPa 5160m付近に-39°C以下の寒気を伴う寒冷渦が、17日～18日に沿海州から北海道付近を東南東進。地上では17日朝までに宗谷海峡の西に発生する低気圧が、寒冷渦の東南東進と共に北海道の西を18日朝にかけて南下する。低気圧周辺及びその西側では地上風の収束が強化され、また上空寒気の影響も加わり、局地的に降雪量が多くなる。北海道地方では17日～18日は大雪による交通障害に注意・警戒し、なだれに注意。低気圧は、18日日中に北海道付近で不明瞭となる。

④ ②や③の低気圧と大陸から張り出す高気圧との間で気圧の傾きが大きくなり、風が雪を伴って強く、波が高くなる所がある。北日本～東日本では17日～18日は風雪や強風、高波に注意。また、東日本～西日本の積雪の多い地域では18日にかけてなだれに注意。

⑤ 西～東日本は、17日にかけて黄砂が飛来する可能性があるが、広い範囲で視程10km未満となる可能性は低い。

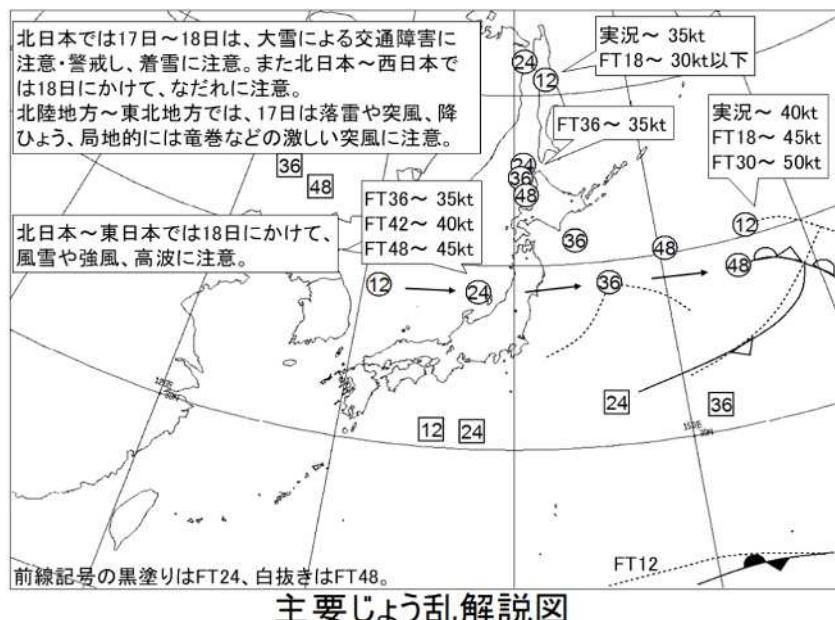
3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量(18時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。

② 降雪量(18時からの24時間)：北海道30cm。③ 波浪(明日まで)：北海道・東北・北陸・伊豆諸島 3m。

④ 高潮(明日まで)：北陸地方では注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。



主要じょう乱解説図